

皆さんの意見のまとめ (1~5班 全体で)

「まち歩き結果図」での主な意見

- 災害時に消防車が入らなかったり、地震で建物が倒れたとき、通れなくなるような狭い道路が多い。道路沿いのブロック塀は危険。
- セットバック (敷地後退) しても電柱や標識が残っていて、車が通りにくい。
- 古い木造の空家が多くあり、地震時の倒壊・火災の恐れがある。防犯面からもよくない。
- 空き地、駐車場は、災害時に活用できそう。
- 神明宮、松徳寺、浄誓院、地藏院、福寿稲荷などは、地域の文化の中心であり緑も多い。地域の魅力として残したい。

「復興まちづくり提案図」での主な意見

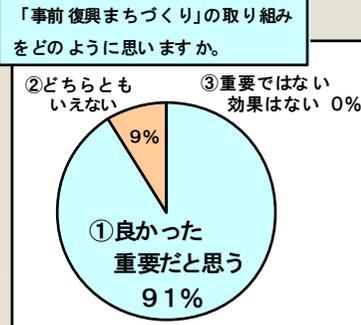
- ・ 地区の主要な道路・避難路として、一定の間隔で、今より広い道路が必要。
- ・ 公園を整備して、日常はもとより、災害時の防災の拠点などに利用する。
- ・ 空家の対策が必要 (除却後の土地の道路として活用等)
- ・ 災害時に既存の井戸を活用できるといい。(調査、再生等が必要)
- ・ 社寺はまちのシンボルであり保全すべき。近隣避難所としても活用する。
- ・ 要援護者の避難について、地域で取組が必要。(共助の取組)

当日の参加者の方へのアンケート結果

今回の「事前復興まちづくり」の取組については、参加者の概ねの方が、「良かった、重要だと思う」との回答でした。

《その他 自由意見》

- 「あらためて、まちの危険箇所の認識ができた」
- 「他の人のいろいろな考え・意見が聞けた」
- 「今後も続けてほしい」、「自分自身の意識づけができた」
- 「まちの課題などを、参加者以外にも共有したい」



今後の取組

今回の「事前復興まちづくり体験」は、大地震に備えるまちづくり (事前復興まちづくり) の取組みのひとつであり、地域の皆さんとまちづくりについて話し合う「きっかけ」として、岡崎市と愛知県が共同で開催しました。

今後、岡崎市では、新たな南海トラフ地震の被害想定をもとに、平成26年度に地区ごとの災害リスクを調査します。その結果を皆さんにお知らせしながら、当地区の事前復興まちづくりの取組みを、引き続き実施していく予定です。

愛知県では、事前復興まちづくりの取組みが促進されるよう、今回の取組事例を取りまとめ、他の市町村に紹介していきます。

お問い合わせ先
岡崎市 都市整備部 都市計画課 計画班
TEL 0564-23-6260

まちづくりかわら版

～ 事前復興まちづくり編 ～
岡崎市 広幡地区

Vol.1
平成26年3月

発行: 岡崎市 都市計画課

「事前復興まちづくり」って何?

東日本大震災を受けて、南海トラフ巨大地震などの、いつ起こるか分からない大規模災害に備えた取り組みを、日頃から進めることが大切になってきています。

ひとたび大地震が起こると、住民も市も大騒ぎとなり、まちの復興について話し合うことが難しい状況になります。そのため、防災訓練の実施などはもちろんですが、まちの復興についても、あらかじめ対応を考えておくことが重要です。

当日 ガイダンス資料より “事前復興まちづくり体験の目的と効果”

東日本大震災を受けて、

地震は、いつ起こるか分からない。
自然災害には上限がなく被害も甚大。

まちづくりも、日ごろからできる限り備えておく事は重要。

事前復興まちづくり体験とは、

自分たちの住む町の災害リスクを知って、

あらかじめ被災後のまちづくりを考える。

被災前

まちづくり(課題の解消)が進み防災性が向上

被災後

まちの復興検討組織が速やかに立ち上がる
復興計画のたき台が準備される

日ごろからまちづくりについて考え、地域の危険性(災害リスク)を知って、被災に備えておくことや、あらかじめ被災後のまちづくりを考えておくこと、また、ただ備えるだけでなく、できることは取組んでおく。このような取組みを「事前復興まちづくり」と呼んでいます。

事前復興まちづくり体験を開催しました

木造住宅や細い道路が多い岡崎市広幡地区で、地域にお住いの代表の方々に参加していただき、「事前復興まちづくり」の検討を行いました。

このような取組は、県内で初めてとなります。

第1回 平成25年11月24日(日) PM1:00~3:30

“まち歩き”

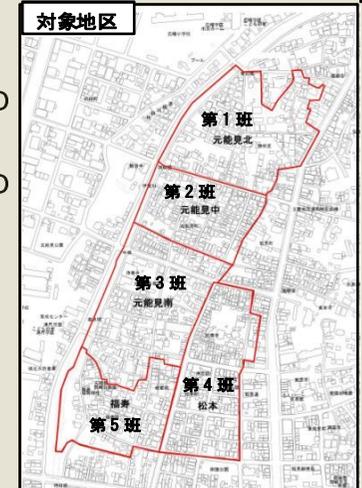
第2回 平成25年12月14日(土) PM1:00~3:30

“復興まちづくりの提案”

対象地区 元能見北、元能見中、元能見南、福寿、松本の5町内会 (右図参照)

参加者 町役員・年行事・子供会役員・消防団員など各町内会で5~8名程度 & 市職員・県職員・コンサルタント

会場 広幡学区市民ホーム



取組みの内容ははこちら

事前復興まちづくり体験の成果 「復興まちづくり提案図」

第1班 元能見北

【第1回 まち歩き】

当地区は古い木造住宅が多く幅の狭い道路が多いため、地震・火災時の避難の際にも影響があることから、地区の災害リスクを確認した後、参加者の皆さんで実際にまちを歩いて、危険なところやまちの魅力を確認し、「まち歩き結果図」としてまとめました。

第1班 まち歩き結果図



延焼の危険度



当日作成した図 (原本)



【復興まちづくり提案図】



町内ごとに、住民の方と市・県職員と一緒にグループをつくり、ご自身の町内の区域を主として、まちづくりについて話し合いました。

【第2回 復興まちづくりの提案】

まち歩きの結果や、燃え広がりやすさなどの地域の災害リスク情報から、仮に被災した場合の復興まちづくりの方向性を話し合い、「復興まちづくり提案図」としてまとめました。

第1班 復興まちづくり提案図



この復興まちづくり提案図の内容は、今回の事前復興まちづくり体験の場に出された意見・提案のまとめであり、今から実施するという計画のものではありません。

事前復興まちづくり体験の成果 「復興まちづくり提案図」

第2班 元能見中

【第1回 まち歩き】

当地区は古い木造住宅が多く幅の狭い道路が多いため、地震・火災時の避難の際にも影響があることから、地区の災害リスクを確認した後、参加者の皆さんで実際にまちを歩いて、危険なところやまちの魅力を再確認し、「まち歩き結果図」としてまとめました。



町内ごとに、住民の方と市・県職員と一緒にグループをつくり、ご自身の町内の区域を主として、まちづくりについて話し合いました。

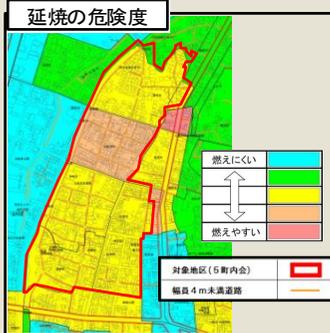
【第2回 復興まちづくりの提案】

まち歩きの結果や、燃え広がりやすさなどの地域の災害リスク情報から、仮に被災した場合の復興まちづくりの方向性を話し合い、「復興まちづくり提案図」としてまとめました。

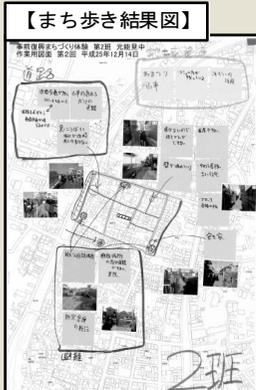
第2班 復興まちづくり提案図

この復興まちづくり提案図の内容は、今回の事前復興まちづくり体験の場でも出された意見・提案のまとめであり、今から実施するという計画のものではありません。

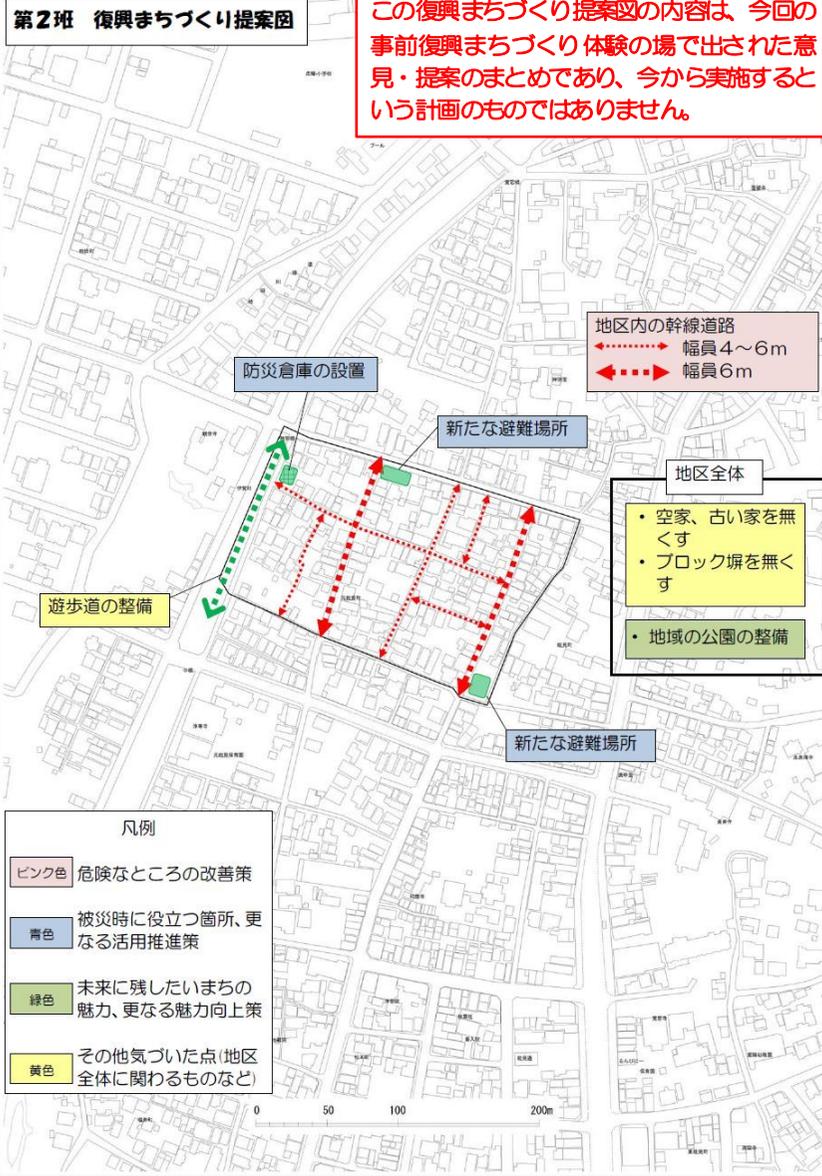
第2班 まち歩き結果図



当日作成した図(原本)



【復興まちづくり提案図】



事前復興まちづくり体験の成果 「復興まちづくり提案図」

第3班 元能見南

【第1回 まち歩き】

当地区は古い木造住宅が多く幅の狭い道路が多いため、地震・火災時の避難の際にも影響があることから、地区の災害リスクを確認した後、参加者の皆さんで実際にまちを歩いて、危険なところやまちの魅力を確認し、「まち歩き結果図」としてまとめました。

第3班 まち歩き結果図

道路幅4m以下
道路狭あいあり



延焼の危険度



当日作成した図 (原本)



【復興まちづくり提案図】



町内ごとに、住民の方と市・県職員と一緒にグループをつくり、ご自身の町内の区域を主として、まちづくりについて話し合いました。

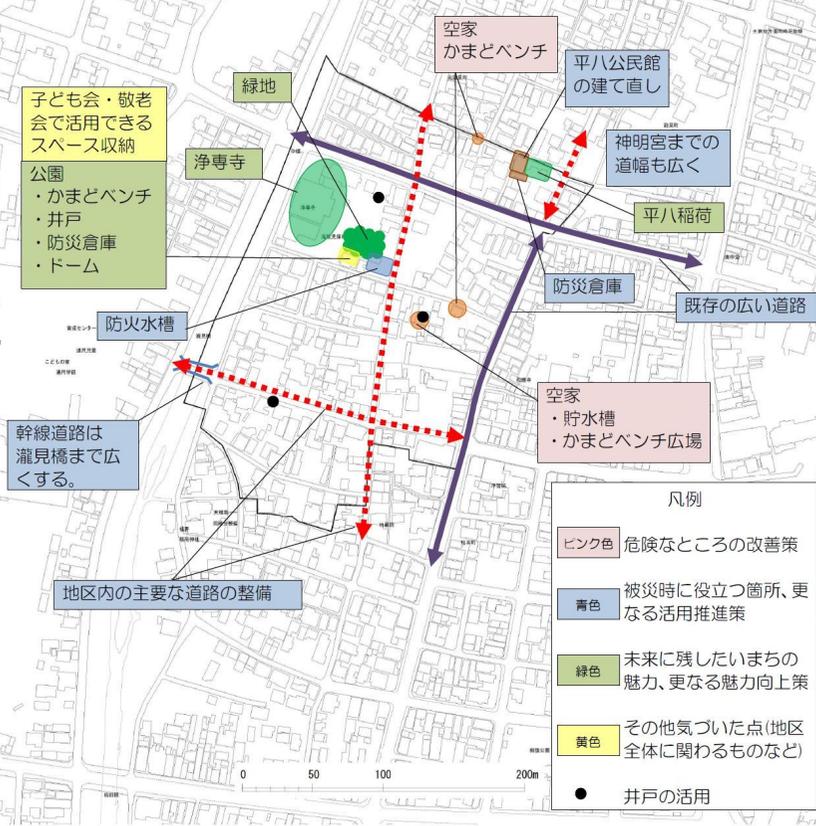
【第2回 復興まちづくりの提案】

まち歩きの結果や、燃え広がりやすさなどの地域の災害リスク情報から、仮に被災した場合の復興まちづくりの方向性を話し合い、「復興まちづくり提案図」としてまとめました。

第3班 復興まちづくり提案図

- 全体
- ブロック塀撤去
- 道路幅4m確保
- 町商業地から住宅地に変更

この復興まちづくり提案図の内容は、今回の事前復興まちづくり体験の場でも出された意見・提案のまとめであり、今から実施するという計画のものではありません。



事前復興まちづくり体験の成果 「復興まちづくり提案図」

第4班 松本

【第1回 まち歩き】

当地区は古い木造住宅が多く幅の狭い道路が多いため、地震・火災時の避難の際にも影響があることから、地区の災害リスクを確認した後、参加者の皆さんで実際にまちを歩いて、危険なところやまちの魅力を確認し、「まち歩き結果図」としてまとめました。

第4班 まち歩き結果図

- 松應寺敷地内には古い木造住宅が多く、火災時に心配
- 木造アーケード、倒壊、火災の心配
- 道路が狭い
- コンクリートやブロック塀もある

- 昔ながらの街並み
- 木造アーケード
- お寺の境内
- 路地、車が来ない
- なかみせ邸
- 太子堂
- 町おこしの拠点

全体

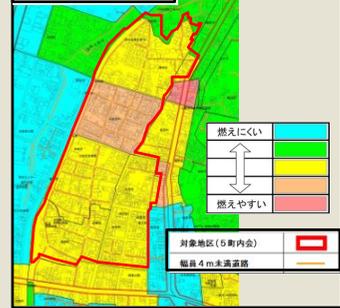
- 鉄筋コンクリート造が多い
- 病院、薬局が多い
- 社寺が多い
- 人情がある。路地にも風情。
- 喫茶スペース、3箇所
- 公園・オープンスペースが少ない
- 高齢者が多い

凡例

- ピンク色 危険と思われるところ
- 青色 被災時に役立つ箇所
- 緑色 まちの魅力
- 黄色 その他気づいた点
- 空地・駐車場
- 幅員8m以上道路
- 幅員4m未満道路
- 消火栓・水槽
- 近隣避難場所(防災マップ)



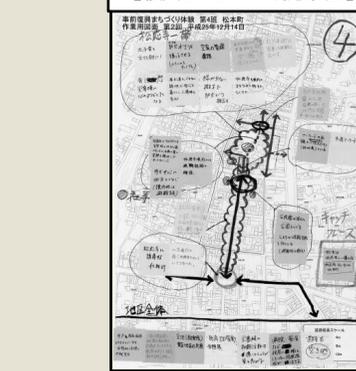
延焼の危険度



当日作成した図(原本)



【復興まちづくり提案図】



町内ごとに、住民の方と市・県職員と一緒にグループをつくり、ご自身の町内の区域を主として、まちづくりについて話し合いました。

【第2回 復興まちづくりの提案】

まち歩きの結果や、燃え広がりやすさなどの地域の災害リスク情報から、仮に被災した場合の復興まちづくりの方向性を話し合い、「復興まちづくり提案図」としてまとめました。

この復興まちづくり提案図の内容は、今回の事前復興まちづくり体験の場でも出された意見・提案のまとめであり、今から実施するという計画のものではありません。

第4班 復興まちづくり提案図

【キャッチフレーズ】
松本は、松應寺と一蓮花生
—松應寺、守り、守られ松本町—

松應寺一体について

- 太子堂を文化財に
- 寺は災害時に心のよりどころとなる
- 緑が少ない。樹木で防火という視点も必要
- 境内のまち並みを残すか? なくすか?
- 防火水槽を復活させる
- 空家の管理義務
- 境内の密集住宅地の防火対策(不燃化、消火栓、消防活動)
- 境内の密集した景観を活かす
- 車が進入できない路地は、安全な暮らしと人情味を生む

全体

- 井戸を有効活用(外からも利用)できるようにする
- 市の災害放送が、自分たちの居住地とマッチできる配慮があると被災者が判断しやすい
- 空地、駐車場の利用
- 病院、薬局の用途混在が活きる
- 濃いコミュニティは、災害時の初期活動に重要
- 町内での役割分担をする
- 道路も空地となる

凡例

- ピンク色 危険なところの改善策
- 青色 被災時に役立つ箇所、更なる活用推進策
- 緑色 未来に残したいまちの魅力、更なる魅力向上策
- 黄色 その他気づいた点(地区全体に関わるものなど)
- 社寺

事前復興まちづくり体験の成果 「復興まちづくり提案図」

第5班 福 寿

【第1回 まち歩き】

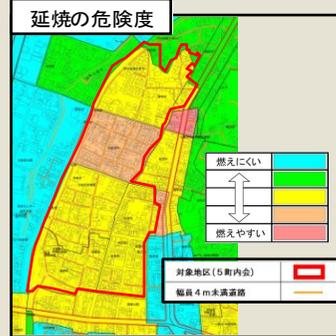
当地区は古い木造住宅が多く幅の狭い道路が多いため、地震・火災時の避難の際にも影響があることから、地区の災害リスクを確認した後、参加者の皆さんで実際にまちを歩いて、危険なところやまちの魅力を確認し、「まち歩き結果図」としてまとめました。



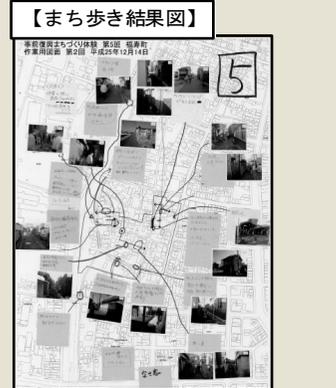
町内ごとに、住民の方と市・県職員と一緒にグループをつくり、ご自身の町内の区域を主として、まちづくりについて話し合いました。

【第2回 復興まちづくりの提案】

まち歩きの結果や、燃え広がりやすさなどの地域の災害リスク情報から、仮に被災した場合の復興まちづくりの方向性を話し合い、「復興まちづくり提案図」としてまとめました。



当日作成した図(原本)



【復興まちづくり提案図】

